



2021年 10月1日
第39号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

10月1日号

9月23日、名古屋出入国在留管理局に收容中だったスリランカ人女性が死亡した問題で、真相が知りたいと来日していた遺族のうち1人が帰国の途についた。出入国在留管理庁は、8月に最終報告を公表したが、死因は特定できないとして、真相は今もなお闇の中だ。

女性は昨年8月に收容され、必要な医療を受けることができず、今年3月6日に亡くなった。亡くなる5日前には、入管職員2名がコーヒーをうまく飲むことができず鼻から飲料が出てしまった女性が見て「鼻から牛乳」と叫び、おかしそうに笑っていたことも明らかになった。遺族が入管職員にこの事実を問いたただすと、「これは日本のブラックジョーク。フレンドリーになるための冗談です」と言い逃れたという。その事実を知ったときは、あまりの衝撃と怒りでいっぱいだった。

外国人は、ときにインバウンドと称しおもてなししては現地にお金を落とさせ、ときに安い労働力として働かせ、ピザが切れた途端に不法滞在として收容され、「人権」が無い毎日を過ごす。悲しいが、これがダイバーシテイを推し進めようとする日本の現実ではないのか。

自民党では総裁選に向けてオンライン政策討論会を開催しているが、そこに入管の問題は出てこない。衆院選も近づき、コロナ対策や災害対策など問題は多くあるなかで、こうした「問題にされない問題」こそ目を背けてはいけない。筆者も目を背けず、自らの意志を示すために投票に行く。(H・M)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという思いを含め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。